

第3学年 社会科学習指導案

指導者 ○○○○

(指導担当教員 ○○○○先生)

1. 日時 平成○○年○月○日(○曜) 第1校時(○:○○ ~○:○○)

2. 学年・組 第3学年 ○組 計 ○○名

3. 場所 3年○組教室 (○棟○階)

4. 単元名 「市場経済の仕組み」

5. 単元の目標

(社会的事象についての知識・技能)

- ・市場経済の価格決定の仕組み、貨幣の歴史、銀行と日本銀行の仕組みを資料から読み取り、理解する。
- ・日本銀行や政府の行なう景気調整のための金融政策や財政政策の仕組みについて資料から読み取り、理解する。

(社会的な思考・判断・表現)

- ・市場経済の仕組みや需要と供給の関係から価格がどのように変動するか、金融・景気調整の仕組みについて、グラフなどをもとに考えて、自分の言葉で説明する。
- ・日本の財政の状況や税金の仕組みなどと関連付けて、日本の財政問題について考えたことを自分の言葉で説明する。。

(主体的に学習に取り組む態度)

- ・市場の働きや日本を取り巻く問題をもとに、財政問題などへの課題の解決などについて、意欲的に追及する。

6. 単元について

①教材観

本単元は、平成29年度告示の『学習指導要領』の「B 私たちと経済」の中に位置付けられる。本単元では、お金の働きから、市場経済の仕組みや金融の役割などを扱う。お金の成り立ちから、市場経済における需要と供給による価格の決まり方や資源の配分について学習する。

日本は、バブル経済の崩壊以後、失われた10年と呼ばれる経済成長の停滞期に入った。さらに現在にそれは続き「失われた20年」と呼ばれるようになっている。この間、日本の名目経済成長率は年0.5%であった。その一方で、アメリカ、イギリスなどの年3~4%台の成長を達成したのとは対照的である。雇用面でも、年平均の有効求人倍率が1.0倍を上回ったのは5年にも満たず、若年雇用の減少、非正規雇用労働者の増加が社会不安を大きくしているといえる。背景には少子高齢化、新興国の台頭、IT革命などの社会の変化への対応ができなかったことや、日本独自の終身雇用制や年功序列型の賃金体系が原因であるといった意見や女性の社会参加が進んでいないことなど様々な原因が指摘されている。また社会保障改革などの遅れを指摘する声もあり、政治

の責任に原因があるとする意見もある。アベノミクスを代表されるようなこの期間の与党の経済政策に対する評価はまだ賛否あり実証されたわけではないが、日本の経済の閉塞感は社会の共通認識であり、課題であることは言えるだろう。

家計の面からみると、かつて日本は、貯蓄率の高い国の一つであり、1970年代には貯蓄率は20%を超えていたが、一度マイナスを記録し、2011年の統計ではフランスの16.2%、ドイツの10.4%と比べて、日本は2.3%と低水準になっている。加入義務のある国民年金の令和元年度の最終納付率は76.3%（令和元年度保険料が令和2年4月末までに納付された割合）で、未納率は20%以上であることから、貧困の問題と並んで公的年金への不信感（もしくは理解のなさ）があるといえる。一方で、金融資産構成比（日本銀行調査統計局資料より）からは、日本の現金・預金の比率は、52.3%と高水準で、アメリカの13.9%、ユーロエリアの34.6%と比べると圧倒的に高くなっている。一方で、「運用資産」の資産における割合は日本の15.1%で、アメリカが50%、ユーロエリアが30%ほどあることを考えると低い水準になっている。このことから、家計と密接な関連のある金融についての関心や意識や理解があまり高くないことが考えられる。本単元では、貨幣の歴史から、需要と供給による市場価格が決まる仕組み、銀行や日本銀行が担う金融の役割などとともに、財政による政府の役割や外国為替相場の仕組みなど、身近な生活と密接にかかわりのある「お金」にかかわる経済分野の内容を取り扱う。その上で、前単元の少子高齢化などの日本の諸課題などの学習とも関連させながら、日本の財政赤字や景気について、経済界の様々な主張を調べ、考える活動を通して、日本の財政問題をどうすればよりよい方向にできるか考えることをねらいとしている。

②生徒観

生徒は、小学校段階での学習においては、商店など小売業の学習で、ものを売るスーパーマーケットなどの小売店が、利潤を得るために様々な工夫をしていることや、それによって私たちの生活が便利になっているということについては学習済みである。また、このことは生徒の日々の生活の中から実感として持っているものであろう。しかし、銀行などの金融業や政府や日本銀行の景気調整の仕組み、需給関係から調整される市場価格や生産の調整などについては、抽象的な思考をともなう高度な経済学的な概念を含む知識なので、具体的な例から考えなければ捉えどころがないと考えられる。近年では、物価の変動が大きく上昇することのない低成長の時代が長く続いていることから、貨幣の価値が変動することについてはあまり自覚的ではないだろう。また、低金利が続いていることもあり、銀行といえば、あくまで「お金を預かってくれるところ」という認識だけの生徒も多いと考えられる。日本銀行の景気調整の役割については、専門的な経済の知識が十分でないため、ニュースで耳にすることがあっても関心をもってとらえている生徒は少ないだろう。

また、大まかに日本の財政問題については、いわゆる赤字財政であり、多額の国債発行に伴ういわゆる「借金」を抱えていることは理解していても、基本的な経済の仕組みを理解しないままにそれらのニュースに触れているため、一面的な見方や印象によって、これらの問題をとらえていると予想される。

前単元で、少子高齢化などの日本の様々な課題を学び、経済のについても一定の基礎的な知識を経済分野の学習を進めていること、株式投資ゲームを通して、経済のニュースなどに関心を持てるようになってきていること、高校3年生にあたる3年後の18歳には選挙権が付与されることなどから、将来の日本の経済状況やこれからの日本の成長戦略については、比較的関心が高いと考えられる。

グループ活動での話し合いになかなか積極的に参加できない生徒は若干数いるものの、クラスの中はよく、自分の考えを一度書いていれば、それを発表することはできる。そのため、話し合い活動の前に、自分の考えをしっかりと書かせ、その上で少人数（3～4人）のグループワークにすることで話し合い活動も積極的に取り組める。

③指導観

前単元で、少子高齢化などの日本の様々な課題を学び、経済についても一定の基礎的な知識を経済分野の知識を踏まえて、日本の財政問題や経済成長についての専門家の様々な立場から、日本のこれからのあるべき姿を考えさせる。特に金融の働きと政府の財政による景気調整機能などの基本的な知識、前単元でのインフレーションとデフレーションなどの基礎的な知識を基盤として、日本の今後の経済的な課題について、追及させる。

第一次では、物々交換の歴史から貨幣の誕生までの過程をから、貨幣の役割に気づかせる。そして、「1万円札は本当に価値のあるものなのか」という問いから、紙幣が誕生するまでの歴史を学習し、金本位制度や管理通貨制度について理解させる。

第2次では、もののねだんがどのように決まるかを、「教師の書いたサインボール」と「有名野球選手のサインボール」の価格の違いや、同じいちごでも季節などによって値段が変化することなどを例に、価格が需要と供給の関係によって決まっていることに気づかせる。

第3次では、市場経済において均衡価格で需要量と供給量が一致することや、さまざまな場合に需要曲線と供給曲線がどのように変化し、価格や取引量がどのように変化するかを、需給曲線を用いて説明できるようにさせる。

第4次では、銀行が預金としてお金を預かるという役割を確認したうえで「銀行はどのようにして利潤を得ているのか」という問いから、銀行の利潤を得る仕組みを理解させる。また、日本銀行の役割と合わせて、銀行や日本銀行が担う金融の役割を理解させる。

第5次では、日本銀行と政府の財政政策による景気調整機能について、「景気をよくするにはどうすればよいのか」という問いから、通貨供給量に着目して、金融政策や財政政策について、通貨供給量をもとに、自分の言葉で説明できるようにさせる。

第6次では、為替の、通貨と通貨の交換の必要性に、海外旅行などを例に気付かせたうえで、通貨事態が投資の対象になる為替市場について理解をさせる。その上で、円高や円安の場合に、貿易などにどのような影響があるかを理解させる。

第7次では、失われた20年ともいわれる日本の経済状況をふまえて、「どのようにすれば日本の景気はよくなるだろう」という問いに対して、様々な経済学者などの意見を調べ、話し合いを通して、日本の財政問題に関する解決策について、日本の社会的な課題と関連させて、この問題を多面的・多角的に分析させ、自分の考えを述べられるようにさせる。

7. 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解している。 ・市場経済の基本的な考え方について理解している。その際、市場における価格の決め方や資源の配分について理解している。 ・現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解している。	・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、市場経済の仕組みや金融・景気調整の仕組みについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、日本の財政問題やそれに対する解決策について、多面的・多角的に考察し、表現している。	・市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に、日本の経済を活性化させる方法について、主体的社会に関わろうとしている。

指導計画(全7時間)

次	時	主題	主な授業の狙い
1	1	お金って何だろう ～お金はどうやって生まれたのだろう～	物々交換の歴史から貨幣の誕生までの過程を考えることで貨幣の役割に気づく。そして、紙幣の誕生までの歴史を学習し、金本位制度や管理通貨制度について理解する。
2	2	もののねだんはどのようにして、決まるのだろう。	同じものでも、ねだんが高くなる場合や安くなる場合があることから、価格が需要と供給の関係によって決まっていることに気づき、市場経済において均衡価格で需要量と供給量が一致することを理解する。
3	3	需要曲線・供給曲線は変化すると、 価格や取引量はどうなるだろう。	・均衡価格や取引量が、様々な条件に対してどのように変化するかを需給曲線を用いて説明する。 ・価格が生産量を調整することを理解する。
4	4	銀行と日本銀行はどのような役割を担っているだろう (本時)	銀行の仕事について理解し、日本銀行の3つに役割について理解し、金融という側面から、銀行と日本銀行が担う役割について理解する。
5	5	どうやって日本銀行や政府は景気を調整しているのだろう。	日本銀行や政府が景気を調整する仕組みについて、通貨の供給量の増減に着目して、好景気・不景気の場合に金融政策や財政政策がどのように行われるかを考察する。
6	6	円高、円安の仕組み ～日本の為替レートの変り変わり～	円高・円安が、需要と供給のバランスによって外国為替市場で決まることを理解し、今までの日本の為替レートの変化のグラフから他国との貿易について考察する。
7	7 8	どのようにすれば日本の景気はよくなるだろう。	積極的な財政出動や減税を主張する意見と財政の黒字化やそのための増税を主張する立場など、日本の経済状況改善のための異なる意見を調べ、自分なりに日本の景気をよくするための方策を構想する。

8. 本時について

①本時の目標

- ・銀行や日本銀行の持つ、金融の仕組みについて理解することができる。

②教材観

金融とは、経済のなかで重要な役割を担っている。金融とは、「お金を融通する」ことの略語であるということからもわかるように、資金の余っているところから、足りないところへとお金の流れを生むことで経済を活性化させているといえる。これは1つに信用創造という機能により、たとえば支払準備率が10パーセントであれば、預金に対しておよそ 10 倍もの貸し出し(貸し出し預金)が生まれることになる。銀行や信用金庫などの金融機関は、預金に対する金利より貸し出しのときの金利を高く設定することで利潤を得る私企業でありながら、一定以上の規模の銀行が破たんの危機に陥った時には、しばしば国家が介入し経営を立て直すという例がみられる。このこと

からも、一国における銀行の経済の安定や発展における役割はとても重要なものであると言える。

また、日本の中央銀行である日本銀行は、私企業ではない認可法人である。日本銀行政府の出資を受けながら、ある程度政府から独立している機関である。日本銀行総裁は国会の同意人事であり、現在の日本銀行総裁には黒田東修氏が平成 25 年よりついでに就任している。この日本銀行には主に3つの機能がある。1つは、国唯一の発券銀行として、日本銀行券の供給と回収に携わっている。2つに、銀行の銀行として金融機関から預金を預かり、資金の貸し出しを行っている。3つに、政府の銀行として税収の受け取りや国債の発行を行うなど、政府の資金の出し入れを行っている。さらに日本銀行は国債などの債権の銀行への売買を通して資金の供給量を調整することで、経済の安定と成長を目指している。

このように資本主義経済における経済活動を円滑に進めるために銀行や日本銀行の果たす金融の役割は非常に大きいといえる。

③生徒観

生徒は銀行といえば「お金を預かってくれる機関」という認識でいるものが多い。株式会社の仕組みで企業が銀行から資金を調達する間接金融については理解しているが、この2つを結びつけて、銀行が利潤を得ているということに気がついていない生徒もいると考えられる。また金利という考え方については「くらしと経済」という単元で学習済みである。日本銀行については、紙幣の歴史の中で、お金を印刷するところだということが学習済みである。ただ、あまりなじみのあるものではないため、生徒によっては建物が円の形であることや総裁の名前、発券銀行以外の機能や景気調整の役割については理解していないものと思われる。

また金融というお金の流れ手についても経済を銀行や個人と企業という大きな視点でとらえているものは少ないだろう。経済の中での銀行や日本銀行の役割について、ここの知識についてはなんとなく理解してはいても、これらを結びつけ、経済全体の仕組みに着目して考えていない生徒は多いものと思われる。またこれらの知識が不足していると日本銀行や政府の持つ景気調整の仕組みや経済に関するさまざまなニュースの意味についてとらえることはむずかしいだろう。

本学級は、仲が良く活発な生徒が多い。疑問に思ったことはすぐに質問したり、クラスメイトの発言で分からないことがあればその場でたずねたりするなどとても知的な好奇心が強い傾向がある。またノートをとったりすることに困難がある生徒はいない。最終学年で受験が近付いていることもありみな学習に対してもとても意欲的である。そして、意味や理由を考え、考えたことを文章で表現する力も3年間を通して育ってきている。ただ、なかには理解したことを自分ことばで説明したりすることが苦手な生徒もいる。

④指導観

まず現行の紙幣と旧紙幣や新しい紙幣のデザインを見せ銀行の役割に着目させる。次に銀行の働きについて考えさせる。ここでは、生徒の予想が立てやすいように、余剰なお金が入った時(例としてお年玉をもらった時)と起業するアイデアがあるが資金が不足している時を例に挙げる。そこから、銀行がお金を預かる機関というだけでなく、企業や個人にお金に利子をつけて貸し出す機関であることをつなげあわせ、銀行が利潤を得る仕組みについて理解させる。その際、預金に対する金利と貸し出しに対する金利では、貸し出しに対する金利の方が大きいということをおさえる。

次に日本銀行の写真を見せる。ここで日本銀行の建物が円の形になっていることに気がつかせる。日本銀行の役割をまず個人でまた日本銀行の立場や総裁についてなど基本的な知識にスライドの写真を見せ、基本的な事項についておさえる。日本銀行のちがいについて問い、日本銀行の3つの役割について理解させる。銀行から個人や企業に対するお金の流れと、日本銀行と銀行の間のお金の流れを模式図にして表す。その上で、

銀行と日本銀行の共通の役割を考えさせることで、銀行のもつ、通貨の流通に関わる仕事で、資金に余裕がある人から資金に余裕のないところへのお金を動かしている金融の仕組みに気づかせる。お金の流れの図をみて考えさせることで、これに気づかせることをねらいとしているが、分からない生徒やお金の流れということについてまでしか気がつかない場合は、どこからどこにお金が流れているのかを問うことでこれに気づかせ、自分のことばでまとめさせる。

最後に、日本銀行が利潤を目的にしない企業であることにふたたび着目させ、日本銀行の仕事について考えさせる。政府(総務省)が所管する認可法人であり、景気を調整している機関であることを知らせる。その上で、どのようにして日本銀行が景気を調整しているかという次々の課題を確認する。

⑤本時の展開

○主なる指示・発問 ■評価

区分	学習活動と内容 (予想される生徒の反応)	指導上の留意点・支援・評価 (教師の活動)	評価方法 準備物・資料等
導入 5分	1. スライドからどこの建物かを予想する。 ・総理大臣の家 ・銀行 ・日本銀行	「ここはどこだろう」日本銀行の内部の見学ツアー(スライド資料) 「これらの紙幣を主に扱っているのはどんなところか」	スライド資料
	2. 紙幣の人物は誰かをペアで考え、発表する。 ・ 銀行はどのような仕事をしているのだろう	○旧紙幣を見せる 「紙幣の人物を答えよう」	旧紙幣(実物)とスライド
	3. 銀行の仕事を調べ、まとめる。 ・お金を預かってくれる ・企業にお金を貸し出す(間接金融)	○「銀行はどのような仕事をしているのか」	

展 開 I 2 0 分	《お金が余っている場合》 ・銀行に預ける 《お金が不足している場合》 ・銀行に借りに行く ・利子を取る。 ・銀行は預金に対する金利より、貸し出しに対する金利を高く設定し、その利子の差で儲けを得ている。 4. 信用創造の仕組みについて、調べる。 ・100万円の預金、支払準備率を10パーセントと仮定し、銀行の貸し出しの総額が預金より大きくなっていることを計算し、確認する。	・お年玉をもらった場合(お金が余っている人)、会社を立てたいがお金が不足している人の2つの場合を考え、それぞれの場合に銀行に行くとる行動を考えさせる。 ○「あなたがお金持ちなら人にお金をただで貸すか」という問から、いずれの場合も利子が発生することに気付かせる。 ○「どのように利潤を出しているのか」 銀行の仕事を、銀行の預金を預かり利子を支払う仕組みと、資金の足りないところに利子をつけて資金を貸し出す仕組みから捉えさせる。 ・この際、個人や民間からの利子と銀行からの貸し出しに対する利子の大小に着目させる。 ○「銀行は預金をすべて、貸し出しにあてているだろうか」信用創造の仕組みについて簡単に説明する。 ・まとめでの金融の役割に気付かせさせるきっかけになるようにする。信用創造や支払準備率という用語を覚えることが目的ではないので、語句としては板書しない。	
展 開 II 2 0 分	5. 日本銀行の写真から、日本銀行の働きを個人で予想する。 ・お金を作る ・お札のデザインを決めている ・偽札を取り締まっているのではないかな ・政府のお金を管理している。 6. 日本銀行の3つの機能を教科書などで調べ、ノートにまとめる。	「日本銀行は何をする組織なのだろう」 ・個人の予想をノートに書かせる。 ・日本銀行の外観(上空写真)を黒板に掲示する。他に、日本銀行の建物の内部、窓口、印刷され裁断される前の紙幣などの写真をスライドに示し、横のペアで話しながら考えるように促し、ペアで考えた予想をノートに書かせる、	

展開Ⅱ 20分	・発券銀行 ・銀行の銀行 ・政府の銀行	・教科書から読み取ったこと3つの役割をノートにまとめさせる。	
展開Ⅱ 20分	銀行と日本銀行の共通点は何だろう 7. 銀行や日本銀行の役割に関する共通点を個人で考えてから、ペアで話し合い発表する。 ・お金の流れに関わる役割 ・お金を動かしている。 8. 個人でノートに記述する。 ・資金の余っているところから足りないところへお金が移動している。 ・通貨の流通に関わる仕事で、資金に余裕がある人から資金に余裕のないところへのお金を動かしている。 ・このお金の動きが金融の仕組みであることを教科書の記述から確認する。	○「銀行と日本銀行の役割の共通点は」 ・お金の移動について、銀行があることでどんな流れを生んでいるかを考えさせ、生徒の意見を板書する。 ・机間指導を行い、お金の移動に気がつけたら、どこからどこへ移動しているといえるかなどを考えさせる。 ■通貨の流通に関わる仕事で、資金に余裕がある人から資金に余裕のないところへのお金を動かしている金融の役割を理解しているか。	
まとめ 5分	9. 銀行と日本銀行の違いをまとめる。 ＜日本銀行の役割＞ ・足りないお金を印刷する ・政府の財政を助ける ・景気を調整する	○「では、銀行と日本銀行はどう違うのか」 ○「日本銀行はどうやってもうけているのだろう」ということから、紙幣を発行する権限のある日本銀行は利潤を追求する組織でないことに気付かせ、日本銀行の目的に疑問を持たせ、次時につなげる。	

③評価(の観点と方法)

- ・資金に余裕がある人から資金に余裕のないところへのお金を動かしている金融の役割について、説明することができる。

④板書計画

銀行と日本銀行の役割とはなんだろう

○銀行→お金を預かり、貸し出して利潤を得る

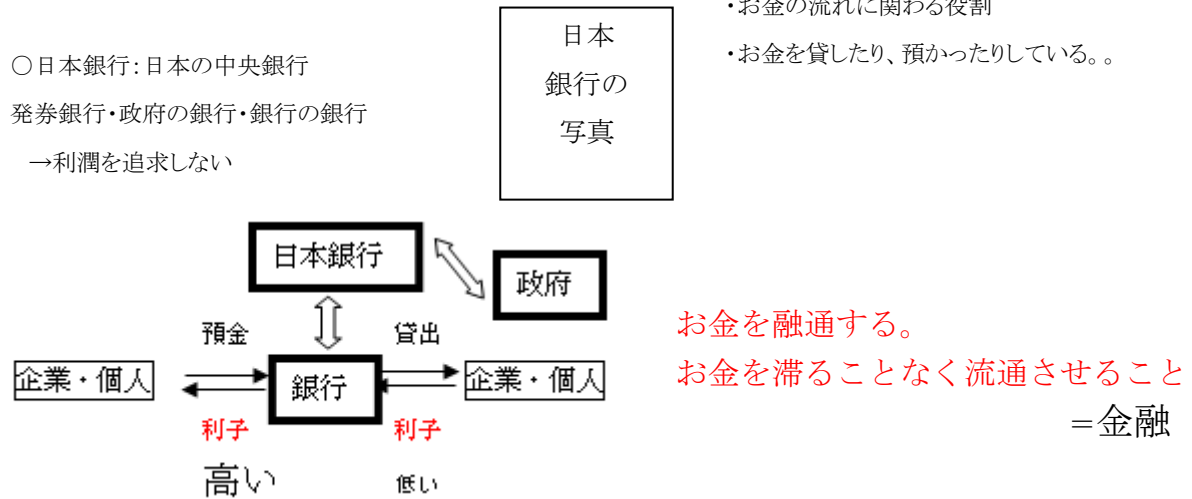
○日本銀行:日本の中央銀行

発券銀行・政府の銀行・銀行の銀行

→利潤を追求しない

共通点は

- ・お金の流れに関わる役割
- ・お金を貸したり、預かったりしている。



⑤準備物

教師:現行の紙幣(一万円札、五千円札、二千円札、千円札旧紙幣、発行予定の一万円札のデザイン案)

日本銀行の上空から撮影した写真(A3版)、スライド資料(次ページに添付)

児童:ノート、教科書